

經濟論叢

第122卷 第5・6号

マルクスにおける生産諸力の概念について(1)……平田清明	1
17世紀イングランドの土地所有……………尾崎芳治	23
不確実性と公共投資……………羽鳥茂	40
Plant 鉄道システムにおける予算制度の創設…森川章	66
ドイツ第二帝制におけるイヌクの再編成……後藤俊明	88

經濟論叢 第121卷・第122卷 総目録

昭和53年11・12月

京都大學經濟學會

記 事

経 済 学 会

今年2回目の定例研究報告会が、さる11月30日(木)午後1時より5時まで、京大会館102会議室で開催された。2名の会員による、それぞれ報告者自身によってまとめられた要旨次のような報告と、これに対する質疑応答があった。

この報告会は、ひと月ほど前に竣工したばかりの京大会館の、学会としてのいわば使い初めであったが、教官12名をふくむ34名の参加をみて、前回同様、熱のこもった集会であった。ただ時間の制約から、質疑応答がそれぞれ十分に展開しつくされぬまま打ち止めとせざるをえなかったことは、司会に当たった者としていささか残念ではあった。

それぞれに興味深く、また多分に刺激的な報告をして下さった菱山・森川両会員、長時間にわたり熱心に参加して下さいました会員各位、そしていつもながら集会準備に御尽力いただいた中江・清水両学生委員と石原氏とに、厚く御礼を申し上げる。

(研究委員 渡辺 尚, 木崎喜代治)

I 19世紀末アメリカ鉄道業における競争と管理

—Plant 鉄道システムの予算制度創設とその背景—

京都大学大学院学生 森 川 章

(報告要旨)

『経済論叢』第122巻第5・6号(本号)掲載の拙稿では、1880年代初頭に創設されたPlant 鉄道システムの予算制度の性格分析をおこなった。これに対して、今回の報告は、この予算制度創設の背景を検討したものである。したがって、分析の力点は1870年代不況以降のアメリカ鉄道業の競争状況、なかんずく1880年前後から南部で急速に展開された巨大システム形成競争とそれに伴う鉄道経営の主要課題の析出に置かれた。

報告では、まず、1880年代以降の巨大システム形成の背後には、南北戦争後のアメリカ資本主義の発展、全国市場の発展、鉄道業における遠隔地間輸送需要の増大、そしてさらには、この遠隔地間輸送を制する鉄道が鉄道業全体を支配する位置を獲得していくという一連の事情が存在したことを確認。つまり、1880年代以降の競争状況は、各主要鉄道に巨大システム形成を外的に強制するものとなっていたことを確認。

次に、かかる時代認識にもとづいて南部五大鉄道システムの形成過程を具体的に検討

し、システム形成上の主要課題が、強大な資金基盤の確保と急増する固定財務負担（主として社債利子から成る）に耐えうる営業利益の確保、この二点にあったことを確認。そして、とくに後者の営業利益確保のためには、形成されるシステム全体の有機的・効率的な経営に必要な管理制度の確立が不可避なること、さらに、Plant 鉄道システムの予算制度創設もかかる課題解決の一環としてなされたことを確認。

報告では、かかる分析から、Plant 鉄道システムの予算制度創設は単なる偶然的個別事象と解さるべきではないこと、すくなくとも当時のアメリカ鉄道業においては、予算制度に結実しないまでも、利益目標を志向する全般的管理制度の探索が広くなされたとみるべきことを結論づけた。